新時代の幕開けを告げる

泉布観（せんぷかん）は、明治４年（1871）に創業した造幣局の応接所として建てられた。東京奠都（てんと）まもない時期に、経済の基盤となる貨幣を製造する造幣局が設置されたことは、経済都市としての大阪の重要性をものがたっており、同時に大阪の化学工業発展にも寄与することになった。

設計者はアイルランド出身の技師ウォートルスで、建物自体は創業の前年にほぼ完成していたという。ウォートルスは幕末から明治初年の日本で活躍した技術者で、造幣局の一連の建築を設計した後、東京の銀座煉瓦街（れんががい）などを設計したことでも知られる。泉布観は、現存する大阪最古の洋風建築であり、全国的にみても長崎や鹿児島などに残る幕末の洋館を除けば極めて早い時期の洋風建築である。明治新政府樹立後、間もない時期に建設された建造物としても重要な存在といえよう。

建物の正面は大川に面した東向きで、当時は舟運が交通の動脈であったことをうかがわせる。造幣局の工場群もまた、大川に正面を向けていた。

創業の翌年、明治天皇がここを訪れ、「貨幣の館」を意味する「泉布観」と命名した。以来、明治 10 年と同 31 年にも天皇は泉布観を訪れている。このほか、明治時代を通して国内外の要人を迎えてきた。

泉布観の建物は煉瓦造２階建で、煉瓦の外側に漆喰を塗って仕上げている。また、周囲に花崗岩の石柱を配したヴェランダをめぐらせる。屋根は寄棟造桟瓦葺（よせむねづくりさんがわらぶき）で、屋根からは煙突が顔をのぞかせている。煙突の下、厚い煉瓦の壁で囲われた部屋には、計８つの暖炉がある。江戸から明治への大きな時代の変化を人びとに印象づけた泉布観。観内ではいまも当時の息吹を感じることができる。

扉の向こうに、明治の息吹。

①

内部に足を踏み入れたとき、多くの人は意外に簡素な空間に驚くのではないだろうか。それは、この建物の竣工が明治４年（1871）と比較的早いことと無関係ではない。文明開化を象徴する東京の鹿鳴館は明治 16 年の竣工。各地に残る明治時代の華やかな洋館も、明治 20 年代後半以降のものが多い。その中で、泉布観は突出して古く、たびたび改装されているものの、明治初年の面影を比較的よくとどめている。

１階廊下の天井高は約 4.5m。天井からはガス灯時代の照明器具が、電気にかわったいまも、当時の重厚さを伝えている。

②

③

④

⑤

①１階中廊下
②１階北東室
③１階中廊下照明器具
④１階北東室暖炉
⑤⑥１階北東室暖炉
グリフォン

⑥

１階北東室は、中央のカットグラスのシャンデリアが目をひく。壁面には、重厚な暖炉がある。暖炉上の大きな鏡は、高い天井をより一層高く感じさせる。暖炉足元には、一対のグリフォン（獅子の体に鷲の羽を持った想像上の動物）が彩りを添えている。

洋館をいろどる
シャンデリア・暖炉・装飾タイル

①

②

③

●１階南室

泉布観はもともと応接所であり、住宅ではない。そのため、各部屋の用途はその時々で変わっていた。ただ、最大の部屋である１階南室は食堂の用途が想定されていたようである。厨房はかつて西側に別棟が存在し、料理は配膳室に続く配膳口の小窓を通して食堂に運ばれた。

●照明器具

泉布観は創業当時からガス灯が使われていた。現在も、１階にはガス灯時代の照明器具が使われている。１階南室の照明器具は、東側が５灯で西側が４灯とあかりの数が異なる。１階北西室の照明器具は、もと昇降式だった。

①1階南室（写真左端が配膳口）　②1階南室西側照明器具　③1階南室西側照明器具細部　④1階北西室照明器具　⑤1階北西室暖炉側面装飾タイル　⑥1階北西室暖炉　⑦1階北西室暖炉床面タイル

④⑤

⑥

⑦

●暖炉と装飾タイル

暖炉のタイルは明治期の洋館を代表する装飾である。泉布観１・２階の南西室の暖炉には、イギリス製の装飾タイルが用いられており、日本における暖炉まわりのタイルの最初期の例である。なお、床の模様は当時高価だったタイルを模してペンキで描かれた。

大川を一望するヴェランダへ

①

②

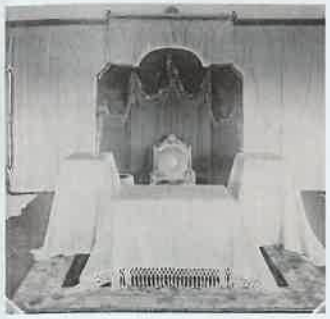
③

泉布観は外周すべての面にヴェランダがあり、ヴェランダに面した窓はすべて、フランス窓（床から直接立ち上がった窓）になっている。中廊下正面の扉からヴェランダにでると、前庭越しに大川を一望できる。

①２階中廊下より東側正面をみる
②２階東側正面ヴェランダ
③２階西側ヴェランダ

「玉座」の間

④



⑤

⑥

⑦

泉布観２階北東室は「玉座」の間と呼ばれ、行幸の際に天皇の御座所が設けられた。この部屋が他と異なるのは、天井から吊りさげられたシャンデリアがないことで、カーテンボックスの延長上に取り付けられたブラケット式の照明になっている。現在の内装は明治 31 年（1898）の行幸にあわせ、二代川島甚兵衛により制作されたものが基本となっている。

④２階北東室カーテンボックス装飾　⑤明治 31 年の行幸を再現した２階北東室（『大阪市立北区実科女学校創立十周年記念』大正 15 年より）⑥２階中廊下より北東室をみる　⑦２階北東室フランス窓

鏡とタイルによる装飾美

①

②

③

①2階北西室
②2階北西室暖炉
③2階北西室暖炉
　装飾タイル
④旧桜宮公会堂外観
⑤明治天皇記念館(『明治天皇記念館　泉布観記録』昭和10年より)

2階北東室が天皇の「玉座」がおかれた格式高い空間であるのに対し、2階北西室は華やかなイメージである。これは暖炉の装飾タイルと楕円形の鏡によるところが大きい。西側にはかつて池泉式の日本庭園があり、この部屋から庭園を楽しむこともできた。

旧桜宮公会堂（旧明治天皇記念館）

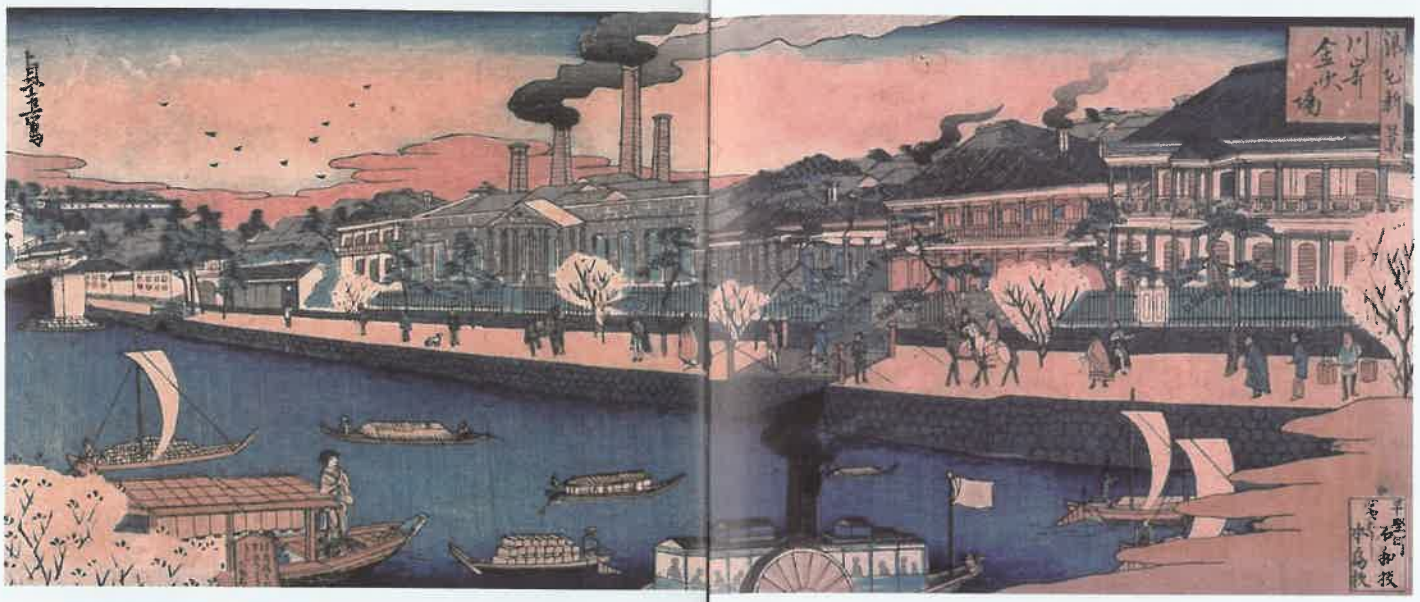
④

⑤

旧桜宮公会堂は、泉布観の北隣りにある。

明治4年（1871）に創業した造幣局の金銀貨幣鋳造場が昭和初年に建て替えられる際、明治初年の文明開化の記念物であり明治天皇の訪れた記念すべき場所であったため、泉布観敷地内に移設して保存されることが決まった。昭和10年(1935)、旧金銀貨幣鋳造場の正面玄関を保存し、背面に鉄骨鉄筋コンクリート造(ぞう)の建物を建設し、明治天皇記念館として竣工した。柱はトスカナ式と呼ばれ、泉布観のヴェランダの柱と同形式だが、材質は泉布観が花崗岩であるのに対し、こちらは龍山石(たつやまいし)が用いられている。第二次世界大戦後、桜宮公会堂・図書館、ユースアートギャラリーなどとして使用された。昭和31年（1956）、正面玄関部分が泉布観とともに重要文化財に指定された。

泉布観　歴史ギャラリー

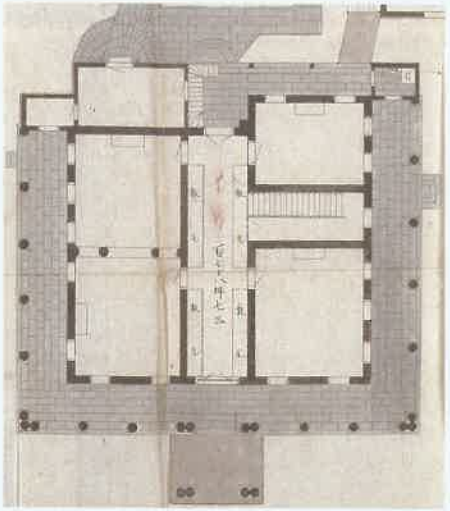


●明治初期の泉布観
（大阪城天守閣蔵）
現在の泉布観は、明治中期に屋根の軒を出して、雨の多い日本の気候に適するように改造されたが、本写真はそれ以前の姿を写した貴重な一枚である。

●明治 31 年（1898）行幸時を再現した泉布観（『大阪市立北区実科女学校創立十周年記念』大正 15 年より）
明治天皇の行幸にあわせて、建物を飾り立てていた。また、当時は大川に面した東側正面に門があった。

●泉布観２階ヴェランダより桜宮を望む（『大阪市立北区実科女学校創立十周年記念』大正 15 年より）
大正 15 年（1926）頃の写真で、大川の桜並木と対岸の都市化・工業化が進む市街の様子が一望できた。

●浪花新景川崎金吹場（大阪歴史博物館蔵）
明治４年（1871）創業間もない頃の造幣局を対岸から描いた錦絵。手前には洋装の人びと、大川には外輪船がみられ、文明開化の象徴だった。左手の大煙突の工場が金銀貨幣鋳造場で、昭和初期の改築にあたりその正面玄関が移設されて旧桜宮公会堂の玄関となった。右端の建物が泉布観。



●新川崎御料地内泉布観建物配置図及平面図・部分（大阪歴史博物館蔵）
明治 37 年（1904）の様子を記録した図面のうち１階平面図。明治中期に改造されたが、この頃は現在とほぼ同じである。図の下方が入口のある東側。

●実科女学校時代の泉布観
（『大阪市立北区実科女学校創立十周年記念』大正 15 年より）
泉布観は大正 7 年（1918）から実科女学校の一部として使用され、写真の 1 階南室は音楽教室として使われていた。

泉布観年表

和暦	西暦	できごと
明治元年	1868	造幣局の位置を現在地に決定。ウォートルスを雇用する。
明治 4 年	1871	2 月、造幣局創業。
明治 5 年	1872	明治天皇、造幣寮視察のため行幸。6 月 4 日から 7 日まで泉布観に滞在。6 月 6 日に泉布観と命名。
明治 10 年	1877	明治天皇、2 月 14 日より 16 日まで泉布観に 2 度目の行幸。
明治 20 年	1887	昭憲皇太后が行啓。
明治 22 年	1889	泉布観が宮内省の所管となる。
明治 24 年	1891	英照皇太后が行啓。
明治 26 年	1893	第四師団長北白川宮能久親王が泉布観に官舎を造営し、明治 28 年 1 月まで滞在。
明治 31 年	1898	明治天皇、陸軍特別大演習統監に際し、11 月 19 日に行幸。
明治 36 年	1903	昭憲皇太后が行啓。
明治 41 年	1908	創建以来のガス製造燃料を廃止、電気使用となる。
大正 6 年	1917	宮内省より、泉布観の土地・建物とも大阪市北区役所に無償で払い下げられる。北区は応急補修の後、北区実科女学校に貸与する。
大正 7 年	1918	市道南森町―東野田線新設のため、泉布観に隣接する北異人館等を取り壊す。これにより造幣局と敷地が分断。
昭和 2 年	1927	泉布観の所管が北区役所より大阪市へ移る。北区実科女学校は、大阪市立実科高等女学校となる。
昭和 5 年	1930	桜宮橋（銀橋）竣工。
昭和 9 年	1934	大阪市立実科高等女学校は、大阪市立桜宮高等女学校となる。
昭和 10 年	1935	泉布観敷地内に、旧造幣局金銀貨幣鋳造場正面玄関を移設保存した明治天皇記念館が竣工。
昭和 20 年	1945	空襲に際し小被害を受ける。
昭和 23 年	1948	大阪市立桜宮高等女学校は大阪市立桜宮高等学校となり、同年移転。旧明治天皇記念館が桜宮公会堂として利用される。
昭和 24 年	1949	重要美術品に指定される。
昭和 31 年	1956	重要文化財建造物に指定される。
昭和 37 年	1962	保存修理工事が行われる（～昭和 39 年）。
昭和 60 年	1985	旧桜宮公会堂、ユースアートギャラリーとなる。

※造幣局の名称は、たびたび変更になったため、造幣局に統一した。
※明治 5 年までは陰暦で表記した。

造幣博物館（Mint Museum）の紹介

泉布観の南側道路向かいに位置し、泉布観関連の展示も行っている。